

パソコンの寿命ってどのくらい？壊れてからでは遅すぎる！

パソコンにも、やはり寿命があります。なるべく長く使いたいのはもちろんですが、ある日突然動かなくなったのでは困ります。パーツの故障の場合は、修理もできますが、大事なデータは消えてしまうと元に戻すことができません。寿命はどのくらいなのかをきちんと把握して、その日のために備えましょう。

●パソコンに寿命はある？

パソコンは使用しているうちに、どうしても故障することがあります。電源が入らなくなってしまったり、電子回路基板が壊れたり。ハードディスクやメモリなどのパーツが壊れてしまうこともあるでしょう。もちろん故障した場合でも修理ができますので、故障＝寿命というわけではありません。



しかし、ハードディスクの場合はちょっと違います。新しいハードディスクに取り替えたとしても、大切なデータは戻ってこないのです。ハードディスクは、さまざまなデータを書き込んだり消去したりといった操作をひんばんに行うため、消耗が激しく、どうしても他のパーツと比べて壊れる可能性が高くなります。そして壊れた場合、取り返しがつかない、そう考えると、ハードディスクの寿命＝パソコンの寿命と言ってもいいかもしれません。

ハードディスクの寿命はだいたい4～5年程度とよく言われていますが、これは使用頻度や使用環境などにも影響されるので、3年だったら大丈夫、というわけでもありません。大切なデータを守るために、常にバックアップを心がけるようにしましょう。



ハードディスクは、高速回転する磁気ディスクに、磁気ヘッドでデータを読み書きします。かなり精密な動きなので、故障の原因となる可能性も大きくなってしまいます。

●パーツが壊れてしまったら

パソコンには、メーカーによる修理対応期間の目安があります。メーカーにて、ある機種のパソコンを市場投入してから、そのパソコンの部品の保有期間は6年程度。つまりこの期間内なら、故障しても修理が可能だというわけです。期間については、メーカーのサイトなどで確認しておくといいでしょう。

パソコンの動作がおかしい、動かないといった場合、どこのパーツが壊れてしまったのか、修理が必要なのかどうかといったことを、あらかじめメーカーサイトのオンラインで調べることもできます。何か問題が起きたときには、まず確認してみてください。

故障箇所が分かったとしても、部品の保証期間を過ぎてしまっている場合は、修理したくてもすることができません。そのことから、部品のメーカー保守期限が寿命と捉えることもできます。

●その日のためにバックアップしておこう

部品の故障ならば保証期間内なら直すことができますが、ハードディスクが壊れてしまった場合、中に入っていたデータを取り戻すことはできません。いつか来るその日のために、バックアップを取るようにしましょう。

必要なデータをバックアップする

パソコンの寿命はあるとき突然やってきます。だいたい寿命はどのくらいなのかを理解し、いつダメになってしまっても大丈夫なように、バックアップを定期的に取りようオススメします。